



製造業と金融資本の比較における世界経済

令和7年4月19日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

金融が経済を所有する。そして新しい世界と未来を模索するのである。これは世界経済の現実である。

そして巨大資本は世界において政治と経済の背後において自己を有するのである。経済は本来人々と社会の需要を与えるものである、しかしマネーゲームという金融の真実はそれと相違し経済そのものを所有するのである。

これらは資本と生産という二重構造が存在するのである。それらは相互に関連し自己を有する。しかし資本主義において資本はその法であり、否定することは経済そのものを否定することなのである。

これら現実共産主義者の主張に一定の正当性を与える事ができるのである。しかし資本主義と競争原理は、今日大きな技術進歩とともに経済それ自体を形成する。また今日における為替相場と個別国家における物価水準は、自由貿易システムにおいてその均等化を自己とするのである。

これらは経済の統一化なのである。そして産業は新たなプレゼンスを自己の製品とサービスにおいてそれら資本を抱き、統一した市場でのコアコンピタンスにおいて企業経営を与えられるのである。

これらは自由経済システムと国際金融資本が行う、グローバル経済の統一なのである。これらは自由主義陣営の絶帝的な基盤なのである。

また先端産業は新たな技術における段階へと進むものであり、それらは飛躍的な進歩を現実を与える。

これら知的集積産業と知的生産性への移行は、全ての産業における新しい現実なのである。またこれらが与える新たなライフスタイルは人々の羨望を有するものであり、それらへの追従が現実なのである。これらはより大きな資本要求を有することは理解しなくてはならない。これが今日の社会転換である。